

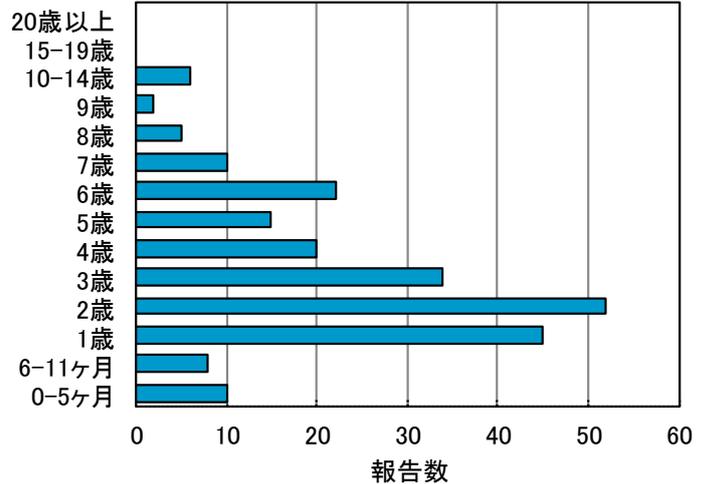
■コメント

1. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は基幹定点から23人の報告があり、多い状況が続いています。年齢階層別報告数は、2歳(22.7%)、1歳(19.7%)、3歳(14.8%)の順に多く、5歳未満が全体の73.8%を占めています。

例年、乳幼児を中心に、5月頃まで報告数が多い傾向にありますので、オムツや吐物の適切な処理、手洗いの励行など、感染予防対策を心がけましょう。

基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)年齢階層別報告数 2018年累計(第18週現在)



2018年第18週(4月30日～5月6日)は、ゴールデンウィーク期間中のため、医療機関の休診の影響で、実際の患者数よりも少なく報告されている可能性があります。したがって、各疾患の増減の評価及び「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)過去5年間	発生記号
フィリ	インフルエンザ	7	0.19	1.12		小児科	流行性耳下腺炎	8	0.33	0.53	
小児科	咽頭結膜熱	7	0.29	0.37		眼科	RSウイルス感染症	12	0.50	0.07	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	1.33	2.27			急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	140	5.83	6.78			流行性角結膜炎	9	1.13	0.63	
	水痘	1	0.04	0.49		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	9	0.38	1.01			無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.18			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	突発性発しん	2	0.08	0.32			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	7	0.29	0.07		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	23	3.29			

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	52	男性(20歳代)
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	7	女性(80歳代)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	第14週 第15週 第16週 第17週 第18週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎	
		広島市	50 44 25 28 7	7 7 10 13 7	48 50 74 79 32	244 219 289 282 140	5 3 6 6 1	1 2 8 5 9	- - 1 1 1	9 8 10 11 2	1 8 4 3 7	2 2 1 3 8	8 9 5 9 12	- 2 1 -	5 11 8 19 9	- -	- 1 -	- -	- -	- -
定点当たり	第14週 第15週 第16週 第17週 第18週	1.35 1.19 0.68 0.76 0.19	0.29 0.29 0.42 0.54 0.29	2.00 2.08 3.08 3.29 1.33	10.17 9.13 12.04 11.75 5.83	0.21 0.13 0.25 0.25 0.04	0.04 0.08 0.33 0.21 0.38	- - 0.04 0.04 0.04	0.38 0.33 0.42 0.46 0.08	0.04 0.33 0.17 0.13 0.29	0.08 0.08 0.04 0.13 0.33	0.33 0.38 0.21 0.38 0.50	- 0.25 0.13 -	0.63 1.38 1.00 2.38 1.13	- -	- 0.14 -	- -	- -	- -	3.00 2.43 2.14 2.86 3.29
全国	第16週 第17週	1.76 1.23	0.34 0.46	2.66 2.91	6.21 6.76	0.29 0.39	0.25 0.30	0.12 0.13	0.54 0.62	0.03 0.04	0.14 0.16	0.41 0.38	0.04 0.04	0.79 0.89	0.03 0.03	0.03 0.03	0.12 0.17	0.01 0.01	0.52 0.39	

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	インフルエンザ様症状	6	女	2018/03/28	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H3)型
インフルエンザ	発熱(40.0) 鼻炎	8	男	2018/04/01	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H3)型
感染性胃腸炎	発熱 嘔吐 下痢	3	女	2018/03/27	糞便	A群ロタウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0) 咽頭炎	1	男	2018/03/28	咽頭拭い液	ヒトホカウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう!

-重症熱性血小板減少症候群(SFTS) / 日本紅斑熱 / つつが虫病 -

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、SFTSウイルスを保有するマダニに吸着されることにより感染します。主な症状は発熱や消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)で、6日~2週間程度の潜伏期間を経て発症します。西日本を中心に、マダニの活動が盛んな春から秋(4月~11月頃)にかけて患者が発生しています。

また、日本紅斑熱やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。症状の主な特徴は、いずれも発熱や発しんで、潜伏期間は日本紅斑熱が2~8日、つつが虫病が5~14日です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

・山や草むらに入るときは、**長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。**

・**屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックしましょう。**

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

【参考】ダニ媒介感染症(厚生労働省) <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp